

新会長就任挨拶

会長 末芳枝(すえよしえ)

会員の皆様、お健やかにお過ごしでしょうか。

多くの芸術家の心を魅了してきた富士山が、6月22日世界遺産として登録され、世界の富士山となりました。素晴らしい事です。



本学会は、会員の皆様
の選出により会長と10名の新理事、会長推薦の2名の理事を含め、新年度の業務を正式にスタートさせました。6月17日第一回理事会は、沖縄の豊田理事、岡山の虫明理事もスカイプによる同時参加となりました。新年度も、理事の方々が専門分野で実力を発揮し、会員の皆様のご要望に応じてくれると信じて居ります。微力ですが、私も最善を盡したいと思ひます。

夏の研修会は8月19日、20日に決定しました。初日には、作曲家の大中恩氏をお招きし、山本富美新理事と北原聖子さんが大中氏の新作を歌って下さいます。また、竹田数章新理事の音声生理学の講座も予定されて居ります。二日目は、日本歌曲研究のスペシャリスト塚田佳男氏の日本歌曲による公開レッスン、そして午後の「歌の集い」では、川村英司元理事の「ドイツ歌曲による演奏とお話」に続いて、二組の合唱等、素晴らしいプログラムを組むことが出来ました。懇親会も考えて居ります。是非々々ご参加下さい。

沖縄支部が、9月に発足する予定です。豊田理事、泉新理事、五郎部会員の提案、企画によるもので、研究会員が増える事をうれしく思つて居ります。

11月例会は、午前は研究発表で、午後は、この学会の前身である「発声指導法研究会」の設立者のお一人である柴田陸先生誕生100年記念演奏会を、山田実(元理事)、豊田理事の企画により開催致します。

来年平成26年10月に、日本声楽発声学会は設立50周年を迎えます。特別の演奏会や地方での例会開催などを検討したいと思います。ご協力をお願い致します。

益々充実した学術研究団体として、専門分野の研究を深め、研究の輪を広げて参りたいと存じます。

新会則により退かれた、米山文明理事長、山田実理事、川村英司理事、小林武夫理事、そして旧理事の方々、役員の方々に、長年盡力を賜りました事に心から感謝申し上げ、今後も引き続きお力添え賜りたくお願い申し上げます。

プロフィール 武蔵野音楽大学卒業、同大学専攻科修了。オーストリー国立ウィーン音楽大学発声科、リート・オラトリオ科、オペラ科の三科卒業。ザルツブルク、ベルギー、スペインでも研鑽を積む。ウィーン音楽祭、その他多くのコンサートに出演、ORFにて放送。フーゴ・ヴォルフコンクールに入賞し帰国。帰国後、20年間連続リサイタルの後、1年の間を置き、1998年まで毎年リサイタルを開催。600曲を超えるドイツ歌曲をE・ヴェルバ博士、田村宏氏、J・デームズ氏、K・リヒター氏、R・ホフマン氏、J・ホラク氏、R・ヒラー氏の各氏等とのピアノで内外で歌う。

<オーケストラとの共演>では、マーラーの歌曲集作品と交響曲の二番三番のアルトソロ

ベートーヴェン「第九」アルトソロ(特に宇宿允人氏全東京公演を含む)。宗教曲アルトソロ多数、室内楽とも共演。内外で放送多数。

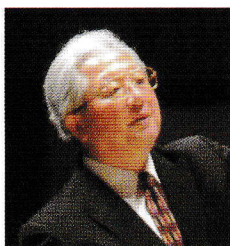
<レコーディング>ウィーンに於いてヴェルバ博士の伴奏によりドイツ歌曲84曲録音と日本歌曲21曲をR・ホフマン教授と録音。5種類のLP、CDがある。NHKで度々放送されている。

声楽家、元日大芸術学部音楽学科及び同大大学院講師、二期会々員、長年本学会理事を勤む。

新理事紹介と挨拶

川上 勝功 (かわかみ まさのり) 副会長兼任

多岐に亘り、多くの皆様から叱咤激励をいただきつつ、新しい陣容で理事会がスタートいたしました。事務局も若い方々でしっかりとした組織になって行くと思います。



今迄、会員の皆様方には沢山のご心配とご迷惑をおかけして参りましたので、これから、私も期待したいと思います。私自身の抱負といたしましては、勿論 末会長のサポート役をしっかり務めることと、学会をもっともっと広い視野で捉え、グローバルな観点に立って、欧米諸国の発声学会と良い関係を築き、お互いの情報交換が出来るように、若い理事の方々とも力を合わせて実現して行きたいと考えております。会員の皆様のご協力も是非お願いいたします。

プロフィール 東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。南カリフォルニア大学オペラ研修所にて研修。発声研究所を主宰し、海外の著名な指導者のマスタークラスを開催。全米声楽指導者協会会員。国際声楽指導者会議メンバー。二期会、東京室内歌劇場、日本合唱指揮者協会各会員。かながわ合唱指揮者クラブ会長。日本大学芸術学部、NHK文化センター各講師。

小川 昌文 (おがわ まさふみ) 副会長、事務局長兼任

副会長兼事務局長としてつとめさせていただくことになりました小川です。会員の皆様には大変お世話になります。事務局長として私に課せられた使命は、



これまでの本学会の伝統と財産を継承しながら、「学会」という学術団体としていかに発展させていくか、道筋と方向性を明確にしていくことであると思います。素晴らしい人

材に恵まれた本学会は今後大きく飛躍する可能性を秘めています。皆様の力と気持ちを結集し、手を取り合って進んでまいりたいと思います。まずは、学会誌の質を上げていくこと、例会などの行事をさらに充実させること、会員数を増やすこと、学会としての知名度を高めること、そしてメリハリのある学会運営を目指してまいりたいと思います。

プロフィール 専門：音楽教育学、合唱

横浜国立大学教育人間科学部 教授 博士(音楽教育学)。東京学芸大学連合大学院芸術系教育講座指導教員(併任)。都留文科大学講師。日本声楽発声学会副会長・事務局長。日本合唱指揮者協会(JCDA)会員。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院音楽研究科修了。インディアナ大学博士課程(音楽教育学)修了。

学位：Doctor of Music Education (D.M.E.)

ホームページ：www.machasama.com

永井 和子 (ながい かずこ) 事務局次長兼任



これから3年間、改めて理事としてそのお役目を全うしたく心を引き締めております。

私は、平成19年5月発行の「40年史」に記載された柴田陸先生他の先生方の文章に感銘を受けて、当学会員であることの意義を深く覚えております。

先達の方々の理に叶った技術やより高い芸術追求に対する意欲に近づくために、発声の基礎技術が独善的にならないよう常々心がけております。

この学会の目的は、個人の感覚を尊重しながら、しかし共有する人体の科学を基本に置いて、それを知識として裏付けながら自己の音声を磨くことを研究の目的としている研究団体であることは周知のところであります。一会員として、本発声学会が一人でも多くの参加者を得て、体験と疑問を充実して話し合える学会になりますよう祈願し、微力ながら精一杯務めさせていただきたく存じます。ど

うぞよろしくお願ひ申し上げます。

プロフィール 大阪音楽大学名誉教授、関西歌劇団名誉劇団員。オペラ出演、国内外において日本・ドイツ歌曲のリサイタル等多数。兵庫県功労者表彰(文化)、神戸市文化賞受賞。

淡野 弓子 (たんの ゆみこ)

これから3年間、理事として「演奏部門」「国際部門」を担当させて戴くこととなりました淡野弓子でございます。私はこれまで凡そ45年間、日本、ドイツ、ブラジル、アメリカで合唱指揮者として働き、特に伯、米においては異なった人種の多くの生の声に接することが出来ました。このような経験から私は、時と場所の制約を超えた「人間の声」の普遍的な法則を探りたいと考えようになりました。



一方我が国では、歌謡の種類によってそれぞれ異なった発声法を用いるという独特の文化があります。普遍性と個別性を同時に見据え、研究を進めるということは容易ではありませんが、当学会が、私たちの抱える難問を共に考えて行く真摯かつ柔軟な組織として機能することに加え、皆様の演奏を通してよりダイナミックな交わりが広がりまた深められますよう、「歌の集い」の成長、発展を願うものです。研究発表に、演奏に、皆様の積極的なご参加を期待しつつ、心からのご挨拶とさせていただきます。

プロフィール 藝大音楽科卒。独逸ヘルフォルト教会音楽大学にて合唱指揮を修め1968年ハイブリヒ・シュッツ合唱団・東京を設立し2008年まで常任指揮者。同合唱団と共にシュッツ全作品496曲ほカルネサンスから現代に至る多くの合唱作品を演奏。また宗教曲、歌曲の分野で歌い手として活動。師：ヴィルヘルム・エーマン(指揮)、アグネス・ギーベル、エリザベス・マニヨン(声楽)。CD：H.シュッツの音楽I～IV他。著書：平凡社新書『バッハの秘密』。「ムシカ・ポエティカ」代表。ハイブリヒ・シュッツ合唱団・東京桂冠名譽指揮者。活水学院キリスト教音楽研究所研究員。ドイツ語福音教会「エクメーニシエ・カントライ」指揮者。メゾ・ソプラノ。

佐々木 正利 (ささき まさとし)

岩手県盛岡市在住の佐々木正利です。この度の選挙で再び理事として学会のために働けることとなりました。力量的には全く役者不足ですが、みなさまの期待に応えられるよう懸命に尽くす所存です。で、どうぞよろしくお願ひ致します。



さて理事としての基本的な心構えとしては、声楽発声、表現を探究する人々を支援し、根本的な理念を確かめ合いながら、世界を見据えた学会活動を展開させていくこと、声楽表現が発声技法を含めて個人研究の域を出、それが交流、切磋琢磨を通じて合体し、幅広く奥行きと継続性のある体系的な学術研究となることを目指して、若手や地方の研究者と共々、更なる発展に寄与したいと考えています。

そのためには、学会員を増やし活発な意見交換がなされる場、有為で質の高い研究交流の場である「例会」をまずもって変革していかなければならないと思っています。末長きご指導をよろしくお願ひ致します。

プロフィール 東京芸術大学卒業。同大学院修士及び博士後期課程修了。1973年の楽壇デビュー以来、ソリストとしてまた合唱指導者として世界的な活躍を続けている。国際バッハコンクールでの入賞やザルツブルグ音楽祭への出演、K.マズア、R.シャイー等世界の著名指揮者、ライブツイヒ・ゲヴァントハウス管、ロイヤル・コンサートヘボウ管等世界の著名オーケストラと度々共演するなど我が国を代表する声楽家である。また後進の育成にも力を注ぎ、多くの優秀な門下生を輩出。盛岡バッハ・カンタータ・フェライン等全国に7つの合唱団を持ち国際的レベルに育て上げた。現在岩手大学教授。二期会会員。1994年第47回岩手日報文化賞(学芸部門)受賞。また2011年には日独交流150周年を記念して、ドイツ大使館より日独友好賞(功労賞)が授与された。



豊田 喜代美 (とよだ きよみ)

今年、本学会創設者である柴田陸先生の生誕100年にあたります。柴田先生はじめ諸先生方のご功績があってこそその声楽発声学会と感謝しております。この記念の年に声楽発声学会は新体制での船出となりました。本学会創立の理念に則り、声楽発声研究を希望する声楽家・学生・教育者・研究者をはじめ、歌を愛する全ての方々と共に、より楽しく有意義な学術学会を目指して微力ながら努めます。何とぞよろしくお祈りいたします。



プロフィール 桐朋学園音大卒業。ドイツ・ケルン音大留学。北陸先端科学技術大学院大学博士後期課程修了(博士、知識科学)。柴田陸、柴田喜代子、萩谷納、E.ボゼニウス、J.スターノ、F.エーガーマン、F.フェッラーリス他に師事。モーツァルト《コジ・ファン・トゥッテ(フィオルディリージ)》他20作品以上のオペラの主演、国内外のオーケストラ定期のソリストに招かれJ.S.バッハ、モーツァルトを根幹に演奏。CDは2008年度レコードアカデミー特別賞受賞の朝比奈隆・新日本フィルの「ニーベルングの指輪」(全曲収録中のジークフリート・ブリュンヒルデ演奏)、貴志康一歌曲、木下牧子歌曲集他。NHK.TV「ニューイヤー・オペラ・コンサート」他出演。第11回ジローオペラ賞、第16回サントリー音楽賞(ホフマン物語4役/小澤征爾指揮他)各賞受賞。沖縄県立芸術大学教授。音楽療法学会会員。音楽学会会員。経営情報学会会員。ウィーン・ハプスブルク宮廷芸術会員。

河合 孝夫 (かわい たかお)

声楽発声の研究には、1「声楽発声の豊かな経験」2、「発声器官の構造と働き」の知識3、「発声器官がどのように働いた時声楽発声になるかの音響的研究」の3つの方向からの研究が必要です。これら3つの研究が有機的にかみ合った時、本学会が持つ声楽発声の豊かな経験を、科学的根拠を持って整理統合でき、あらゆる社会的要求に応じたより具体的で柔軟な発声



指導方として活用できるようになります。皆さん一緒に夢を実現しましょう。

プロフィール 東京芸術大学卒業。ドイツ、イタリア留学。さらに声楽指導法の研究のためフランス、イギリス、アメリカ、ニュージーランド等で開かれた国際声楽指導者会議に参加。声楽家としての演奏活動をする他指導者としても活躍。伊、独、英、仏の4カ国語に通じる。

自らの音楽研究所で声楽指導をすると共に30数年合唱センターで指導。合唱発声の指導と合唱アンサンブルの指導に定評があり、講習会やコンクールの審査員として全国各地で活躍。ハーモニー誌に執筆する他、多数の研究発表をし、テレビにも出演。

日本声楽発声学会理事、二期会会員、全米声楽指導者協会(アメリカ)会員、東京合唱アンサンブル研究会主宰。

竹田 数章 (たけだ かずあき)

医学と声楽発声との接点領域を中心に学会活動を盛り上げたいと考えております。よろしくお祈りいたします。



プロフィール 日本医科大学大学院博士課程卒業。医学博士。現在仙川耳鼻咽喉科院長。桐朋学園・洗足学園臨床音声学非常勤講師。

虫明 真砂子 (むしあき まさこ)

私は、教育学部で長年教員養成に携わり、将来音楽教師になる学生たちの歌唱や合唱の指導に携わってまいりました。しかし、残念ながら教育現場での発声に対する認識は、高いとは言えません。学生たちの歌唱の問題、発声の問題に対する教育現場の現状や課題を踏まえ、また自らの演奏活動を通して、発声教育の向上に微力ながら努めたいと存じます。どうかよろしくお祈りいたします。



プロフィール 演奏名、高橋昌子。愛知県立芸術大学大学院修了後、ヴェルディ音楽院に留学。文部科学省在外研究員として米国インディアナ州立大学で研修。桑原賞受賞。第21回日伊声楽コンクール第1位。日本演奏連

盟賞受賞。NHK洋楽オーディション合格。第43回岡山県文化奨励賞を受賞。R. リッチ、東敦子の諸氏に師事。岡山シンフォニーホール開館記念「ワカヒメ」、倉敷音楽祭「ボエーム」「夕鶴」等に主演。「第九」等のソロ、全国二期会サミットコンサート等に出演、ソロリサイタル開催。岡山大学大学院教授、中国二期会理事、神戸波の会会員。

鈴木 慎一郎 (すずき しんいちろう)

このたび理事として新たに
加えていただきました、鈴木
慎一郎と申します。日本声楽
発声学会へは大学院生のとき
に入会し、今日まで至り、毎
回、刺激をいただいております。
特に私が好きなのは、例
会におけます「現役声楽家の演奏とお話」で
す。論文発表、口頭発表だけではなく、生の
演奏が活動の中に含まれているのは、日本声
楽発声学会の魅力の一つです。



今後、学会に望まれることは、会員の数を
拡大し、より学会活動を活性化することだ
と思われまます。ベテランの方はもちろんのこ
と、大学院生をはじめとした若手研究者が積
極的に研究発表、演奏発表する場になってほ
しいと願っています。また、関東圏のみならず
、地方へも学会の魅力を伝えることができ
たらと考えております。そのためにも、一つ
ひとつの仕事丁寧に取り組んでいきたいで
す。何分初めての経験で不慣れなことがある
かと思われまますが、よろしくお願いいたしま
す。

プロフィール

- 2006 (平成18) 年 3月 兵庫教育大学大学院博士課程
修了 博士 (学校教育学)
- 2006 (平成18) 年 4月 白梅学園短期大学専任講師
(~2010年3月)
- 2010 (平成22) 年 4月 白梅学園短期大学准教授
(~2012年10月)
- 2012 (平成24) 年 11月 鳥取大学地域学部地域教育学
科准教授 (~現在に至る)

泉 恵得 (いずみ けいとく)

今年度から新たに理事に
加わりました泉 恵得でござ
います。今年3月に40年務
めた琉球大学を定年退職致
しまして、依然よりは多少
の時間が出来るようになり



ましたので、理事のお話を御受け致しまし
た。然しながら、沖縄在住ですので、如何ほ
どのご協力ができるか心もとないのですが、
時間と体力の続く限り頑張りたいと存じます
ので、会員皆様のご指導を何卒宜しくお願
い致します。

プロフィール 沖縄県うるま市平安座島出身。1967年東
京芸術大学声楽科入学、1971年同大学大学院ソロ科入
学、1974年同大学院修了、琉球大学に赴任。1978年イ
タリア留学。1990年イタリア留学。1996年ドイツ留
学。「冬の旅」はJ・デームス、渡辺健二、大場俊一氏
と、「詩人の恋」は小林道夫、三上カーりん、佐久間
龍也の各氏と共演。オペラは「魔笛・琉球版」「ディ
ーとエネアス」「ラ・ボエーム」「ファウスト」他。第
九交響曲は新日フィル、九響、ロイヤルフィル、沖響な
どと共演。

山本 富美 (やまもと ふみ)

ソプラノの山本富美と申
します。演奏会の企画・制
作と学会誌の編集を担当さ
せて頂きます。発声学会の
活動を通して、私も勉強さ
せて頂く所存です。微力ではございますが、
一生懸命務めさせていただきますので、どうぞよ
ろしくお願いいし上げます。



プロフィール 東京藝術大学卒業、同大学院修士課程を
経て博士後期課程単位取得修了。イタリア政府給費生
として渡伊し、ミラノ・ヴェルディ国立音楽院卒業。ベ
ッリーニ、マリアカナルスなど国際コンクールに入賞し
ヨーロッパで活動後、米国に渡りヘンデル『エジプト
のイスラエル人』でデビュー。帰国後は日本歌曲の演
奏会への出演も多い。CD『幽韻』をリリース。二期会
及び東京室内歌劇場会員。日本演奏連盟会員。都留文
科大学非常勤講師。

夏季研修会のお知らせ

第1日 8月19日(月)	
A	PM 1:00 ~ 3:00 特別講演「詩と音楽の融合」 講師：作曲家 大中 恩 演奏：山本富美(本学会理事),北原聖子
	PM 3:15 ~ 5:15 音声生理学講座 「音声医学から考える声種について」 講師：医学博士 竹田数章(本学会理事)
第2日 8月20日(火)	
C	AM 10:00 ~ 12:00 日本歌曲公開レッスン 講師：ピアニスト 塚田佳男
	PM 1:00 ~ 3:00 「歌の集い」 演奏：川村英司 (Br. 本学会名誉会員) 他、合唱2団体

*第2日プログラム終了後に懇親会を予定しています。

会場 日本福音東京ルーテル教会(新大久保)

聴講料 聴講数の合計額をお支払い下さい。

* 1講座あたりの聴講料

正会員：2,000円 学生正会員：1,000円

臨時会員：3,000円 高校生以下：500円

* 参加する講座の講座数ごとの聴講料

	正会員	学生正会員	臨時会員	高校生以下
1講座	2,000円	1,000円	3,000円	500円
2講座	4,000円	2,000円	6,000円	1,000円
3講座	6,000円	3,000円	9,000円	1,500円
4講座	8,000円	4,000円	12,000円	2,000円

例1 19日のみ、もしくは20日のみ参加→2講座

例2 2日間全日の参加→4講座

例3 A+B+C→3講座 **例4** Dのみ→1講座

☆聴講申し込み☆

聴講を希望される方は、8月15日(木)迄にどの講座(A、B、C、D)に参加されるかを通信欄に明記の上、お振込願います。尚、第2日(20日)のプログラム終了後の懇親会に参加をご希望の方は、その旨を振込用紙の通信欄に明記下さい。会費は1,000円(当日)の予定です。

お振込先 ゆうちょ銀行

口座番号 00170-0-119920

加入者名 日本声楽発声学会

特別講演「詩と音楽の融合」

— 大中 恩の世界 歌曲と合唱曲
演奏とお話を交えて

大中 恩先生の新作歌曲の演奏、会場の皆さんの合唱を指導していただく予定です。

詩が作曲家の内面を経て、どのような曲として生まれてくるのか・・・。

演奏家はどのように表現をすればよいのか・・・。

曲目

歌曲集

「きえないころ—天使たちのおかあさんへ—」

詩 山岸千代栄

演奏 Sop. 山本 富美

「あなたが歌うとき」

詩 青木 一恵

演奏 Sop. 北原 聖子

合唱曲 ろうそくのように、わたりどり

女声二部合唱曲集「そよ風のひとひら」(カワイ)

大中恩女声合唱曲集「はじまりの海へ」(全音)

*楽譜につきましては、著作権及び版権の問題がありますので参加者個人でご用意願います。**コピーは厳禁です。**

プロフィール 大中 恩(めぐみ)

1924年生まれ。東京音楽学校(現東京芸大)作曲科卒業。「ろばの会」で「いぬのおまわりさん」「サッチャン」をはじめ、長年こどものための音楽の創作と発展に尽くす。1957年から30年間、自作品のみを演奏する合唱団「コールMeg」を主宰。

1972年九夜連続演奏会は圧巻。1961年「第一回歌曲の夕べ」を開催。以来、多くの声楽家の協力のもとに歌曲の作曲、演奏会を重ね、2009年歌曲連続6回演奏会を遂行。合唱曲にて文化庁芸術祭の受賞多数。日本童謡大賞、童謡文化賞。1989年紫綬褒章受章。平成8年、13年本学会夏季研修会(軽井沢)にて公開レッスン。



日本歌曲公開レッスン

講師 塚田 佳男 (つかだ よしお)

プロフィール

群馬県出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。二期会等でオペラや各種コンサートの伴奏・コレパティトゥーアを勤めた後、75年から77年までドイツ・デトモルトにてピアノ・オルガン・伴奏法を学ぶ。帰国後から現在に至るまで歌を知りぬいた繊細な音楽性で、特に日本歌曲の研究・解釈・伴奏においては現在日本の第一人者としての活動を続けている。故畑中良輔氏と共に企画・構成に携わり、その伴奏のほとんどを受け持ってきた、93年より続く音楽の友ホールでの《日本歌曲シリーズ》を代表に、日本歌曲や日本の歌による演奏会での企画構成と演奏は、国内はもとより海外においても高い評価を得ている。また、様々な歌手の伴奏を務めたCDは多数リリースされており、セミナー等での講師としての活動も、日本歌曲の歌唱法、伴奏法の指導を中心に全国各地で行っており、多くの歌手とピアニストたちを育成している。96年上毛芸術奨励賞、および99年に設立の歌曲伴奏者に対する賞「水谷達夫賞」の第1回受賞者。日本演奏連盟所属。東京室内歌劇場器楽会員。



「歌の集い」

プログラム

1) 独唱とお話

Bariton : 川村 英司

Am Flügel : 東 由輝子

Johannes Brahms

Die Mainacht (Hölty) Op. 43, 2

Alte Liebe (Candidus) Op. 72, 1

Meine Liebe ist grün (F. Schumann) Op. 63, 5

Verrat (Lemcke) Op. 105, 5

Botschaft (Nach Hafis von Daumer) Op. 47, 1

Hugo Wolf

Aus Lieder nach Gedichte von Eduard Mörike

Verborgenheit

An die Geliebte

Selbstgeständnis

Bei einer Trauung

Abschied

2) 合唱

女声アンサンブル The Mermaids

指揮 小川 昌文

ピアノ伴奏 田澤 儀高

木下牧子

《めばえ》 みずがめかずよ作詞

《おんがく》 まどみちお作詞

《折り5》

三善 晃

《あの日から》 三善 晃 作詞 他

3) 合唱

横浜雙葉学園聖歌隊

指揮 川上 勝功

Adoramus te Christe

P. da Palestrina

In die tribulationis

C. de Morales

Sancta Maria

Knut Nystedt

Seek Ye The Lord

Knut Nystedt

他

☆20日(火)の日本歌曲公開レッスンの受講生を募集します☆

今回は歌手とピアニストの両者のレッスン受講になります。

1組あたり30分のレッスンで、4組募集します。

・受講料

歌手手：6,000円

伴奏ピアニスト：6,000円

計12,000円

・受講曲は自由です。

(各自1~2曲ご用意下さい)

・応募締切：7月20日(土)

ファックスで事務局にお申し込み下さい。

★ FAX 045(952)3813 事務局/小関

新事務所について

新事務局員着任に伴い、以下のように事務局所在地、連絡先を変更します。

新事務所

〒241-000

神奈川県横浜市旭区上白根1-5-552 小関 方

TEL/FAX 045-952-3813

担当 小関

電話受付時間帯 月～木の9:00～12:00

*それ以外は留守番電話対応です。

会員の動向

・山田 実相談役、豊田喜代美理事出演の柴田陸陸メモリアルコンサートー生誕100年・没後25年

平成25年6月23日(日)東京文化会館小ホール

■豊田喜代美ソプラノリサイタル

「祈り・細川ガラシャと共に」

9月1日(日)13:30開演、13:00開場

サントリーホール・ブルーローズ

全席指定 S7,000円 A5,000円

学生2,500円(二期会のみ取扱)

お問い合わせ:

03-3796-1831(二期会)

0570-55-0017(サントリーホールチケットセンター)

03-5685-0650(東京文化会館)

0570-02-9999(チケットぴあ)

今後の予定

夏季研修会

8月19、20日(詳細はP6,7参照)

11月例会

11月26日(日)10:00～16:30

会場 東京藝術大学 第6ホール

*午後は、柴田陸陸生誕100周年記念コンサートを行います。次号に詳細を掲載予定。

事務局から

会費納入のお願い

未納の方は早急にお振込下さいますよう、お願いいたします。

お振込先

ゆうちょ銀行

口座番号 00170-0-119920

加入者名 日本声楽発声学会

事務局だより

事務局長 小川 昌文

6月より新理事が5名加わるとともに、新事務局員として小関さんが着任し、日本声楽発声学会は新たなスタートを歩み始めました。エネルギーで開かれた学会をめざしてスタッフ一同努力してまいりますのでよろしくお祈りいたします。

現在の本学会の喫緊の課題は、学会内容の更なる充実とともに、会員を増やして財政基盤をより安定させることです。今回「学会案内」を同封させていただきました。会員の皆様にはぜひご協力をお願いいたします。

編集後記

幹事 相川 修一

版を重ねるごとに試行錯誤してきましたが、学会通信の更なる発展のためには、会員みなさんのからの投稿の充実が必要です。提言、各種イベントの感想等の他、コンサート案内、CDや書籍等のリリース、メディアへの出演等ありましたら、事務局までお気軽にお寄せ下さい。随時受け付けています。各種情報はホームページにも掲載いたします。

2013年7月15日

日本声楽発声学会 学会通信 第25号

発行人 末 芳枝

編集人 相川 修一

発行 日本声楽発声学会事務局

〒241-0002 神奈川県横浜市

旭区上白根1-5-5-552 小関 方

TEL/FAX 045-952-3813

e-mail : jars@jars-voice.com